

Music Performance Grades

Jazz Piano Syllabus

Valid for exams from 2026

パフォーマンスグレード ジャズピアノ 受検要項 (参考抄訳)

2026 年より有効

2024 年 9 月発行

この受検要項はジャズピアノに限られたものであり、検定の準備に関連するその他の情報を提供している「資格認定規定：音楽パフォーマンスグレード・ジャズ」の一部です。詳細は次のウェブサイトをご確認ください。www.abrsm.org/perforamncegrades

ジャズピアノ 受検要項

目次

1. はじめに	4
ABRSM について	4
資格認定に関する詳細	4
パフォーマンスグレード検定について	5
資格認定規定	7
資格認定規定（英国以外のヨーロッパ）	7
資格認定規定（それ以外の国）	7
2. ジャズパフォーマンスグレード検定	8
シラバス	8
検定規定集	8
不正受検と不正運営	8
受検資格	9
受検申込み	9
受検へのアクセス（特別な配慮の必要な受検者）	9
特別な配慮	9
多様性	9
検定の内容	10
検定の実際	10
3. ジャズピアノパフォーマンスグレード検定シラバス 2024	11
はじめに	11
ジャズピアノパフォーマンスグレード：課題内容	11
▪ 楽器	11
▪ パフォーマンス（演奏）全体の評価	12
▪ 演奏曲の選択	12
▪ 検定の準備	13

ジャズ課題曲リスト	14
4. 評価と採点及び違反行為	15
評価の目標	15
評価の配点	15
評価の区分	15
包括的評価について	15
評価	16
違反行為	16
採点基準	16
パフォーマンス全体の評価	19
5. 検定の後に	20
結果	20
アピールとフィードバック	20
6. その他の検定	21

はじめに

ABRSM について

ABRSM は指導者や学習者を可能なすべての範囲でサポートしております。その中の一つが高品質で高い評価を得ている検定を提供することです。ここでは厳格で一貫性のある基準が設置され、各々次のステップへの明確な目標となっています。この検定は4つの英国王立音楽大学から協力を賜り、音楽の達成感を得る為にさまざまな工夫と試行錯誤を経て、いまや世界中で価値が認められ、信頼されています。

シラバスは基本的な音楽スキル—聴く力、演奏力、読む力、書く力、そして音楽の知識と理解力をベースとしています。これらのスキルと共に、学習者は音楽力を伸ばし、さまざまな音楽分野での能力を発展させることができます。

検定は、学習者にわくわくする体験と多大な恩恵をもたらします。まず、学習者はモチベーションを持ち、素晴らしい音楽の発見と共に新しい技術を身につけることができます。さらに検定で音楽の目標に到達することによって、達成感が得られるのです。

ABRSM は学習者にとって、この検定を受けることが前向きで実りの多い経験となるよう最善をつくします。ここではスペシャリスト、音楽指導者、検定員の協力のもと、幅広い課題曲が選択されており、高度に訓練された検定員は、親しみのある態度で受検者に接し、彼らが検定において最大の力を発揮するよう努めます。

私たちは、このシラバスが学習者、指導者の音楽力、指導力を高める上に励みになり、役に立つものとなるよう願っております。皆様の「音楽の旅」が実りのあるものとなりますように！

ABRSM のミッション

ABRSM のミッションは、全世界で音楽を通して人生が豊かになるよう影響を与えていくことです。私たちはこれを四つの王立音楽院—王立音楽アカデミー、王立音楽大学、王立ノーザン音楽大学、王立スコットランド音楽院と協力関係を結んで行っております。

私たちは音楽の芸術としての価値と音楽教育に対して情熱を持っています。音楽と関わることによって、人々に一生ものとなるユニークで肯定的な経験が得られると信じているのです。

世界トップレベルの評価検定、教材や資料を通して全世界の人々に音楽を教え、学び、創り、楽しむための手段を提供しています。私たちの奨学金、寄付、スポンサー及びパートナーシップは全年齢の人々に音楽と彼らの可能性を見つけ出す機会を与えます。私たちがやっている全ての事業は学習者と先生たちの音楽の旅を応援するように設計されています。

ABRSM とは？

ABRSM (Associated Board of the Royal Schools of Music) はイングランドとウェールズにおいて登録されている団体であり、事務局はロンドンにあります。詳しくは公式サイトをご覧ください。

www.abrsm.org

資格認定に関する詳細

資格範囲

この資格認定に関する詳細には、指導者、受検者、保護者そして団体が以下のセクション3に属する実技検定試験を準備する際に役立つ資格規定の関連情報が掲載されています。

- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル1資格(グレード1, 2及び3)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル2資格(グレード4と5)
- ・ ABRSM 音楽実技におけるレベル3資格(グレード6, 7及び8)

また、検定の過程、学習の成果、採点基準などの詳細が掲載されています。

より読みやすくするため、この要項全体において資格規定の正式タイトルの代わりに「ジャズパフォーマンスグレード検定」を用います。同じように、もう一つの長年続けてきた対面実技グレード検定は、正式名称の代わりに「対面実技検定」を用います。

事務事項などを含める詳細は、ABRSM 検定の規定概要(www.abrsm.org/examregulations)にて提示されていますので、申込の前に必ずお読みください。

要項の有効期限

この要項(シラバス)は2026年1月5日から、新しいシラバス発行の告知があるまで有効です。

特別な事情がある場合にはシラバスに変更を加えることがありますが、その場合はウェブサイトにて前もってお知らせ致します。

パフォーマンスグレード検定について

資格認定の目的

パフォーマンスグレード検定試験は学習者が楽器の技術的なコントロール、レパートリーの解釈、伝達の仕方、表現などの音楽を演奏する際に必要な技能を披露できるように作られています。各グレードは段階的でそれぞれに新しい課題が用意されており、学習者が意欲を持って演奏スキルを発展させ磨いていけるよう構成されています。

検定を通して、受検者はこの先の学びの過程において支えになる受検したグレードの習熟度や批評、助言等が書かれた正式な講評を受け取ります。パフォーマンスグレード検定試験は学習者が全プログラムを演奏する能力、一定以上の長さのプログラムを通して音楽的な意図を伝達するスキルについて評価され

認められる機会を与えます。

受検資格

ジャズパフォーマンスグレード検定の受検は即興演奏を含む包括的な演奏スキルを身に付けようとする全ての学習者のために提供されております。学習者は年齢に関係なく検定に挑戦できますが、グレード6、7、8においては次のページに記載されている前提条件となる資格を事前に取得する必要があります。

この実技検定では異なる年齢、経歴、音楽への興味や関心に沿って幅広い課題曲が選択出来るよう工夫されています。

また私どもは、すべての受検者が公正な評価を受けられるよう、特別な支援が必要な受検者のための受検会場の手配や調整などを行っています。ジャズパフォーマンスグレードには受検者が検定員の指示に反応して初めて見る楽譜を読んで演奏する項目は含まれておりません。この検定は、受検者が可能な時、可能な場所で受検することが出来ます。

構成

各ジャズパフォーマンスグレード検定試験は音楽の演奏に必要な基礎知識と理解を包括的に評価するように構成されています。全グレードにおいてこれらのクリエイティブな能力は楽器の技術的なコントロール、レパートリーの解釈、伝達の仕方、演奏プログラムの継続性などによって示されます。これらのスキルは総合的に、受検者を次のグレードの受検、進学、就職、及び他の芸術活動に繋げていくことが出来るのです。

受検者はレパートリーリストから選ばれた4曲の課題曲(各リストから最低1曲ずつを含む)で構成されたプログラムを演奏することを求められます。各曲はそれぞれ同じ配点となり、これに演奏全体の総評が加えられます。

学習の道すじ

ABRSM のジャズパフォーマンスグレード検定はグレード1から8まであります。それぞれのグレードは段階的に要求難易度が上がっていきます。この要項のセクション3におけるシラバスにて、各楽器で受検できるグレードが表示されています(英文参照)。グレード6、7、8を受けるためには前提資格条件がありますが、基本的に下から順にすべてのグレードを一つずつ受検していく必要はありません。

このジャズパフォーマンスグレードは、早い段階からテクニックと演奏者の特徴を出来るだけ演奏に反映し伝えることを理解する重要性を学習者に教え込みます。

ジャズパフォーマンスグレードの受検者は、グレード1-5においては、全方位的な音楽スキルに集中することを望み、対面実技検定の方へと進むことも出来ます。

この長年行われてきた資格検定は学習者が演奏と全方位的な音楽スキルや知識を取得できるように設計されています。各グレードは段階的であり、学習者に新しい挑戦を示していて、自身の音楽スキルを上

達させ磨いていくための動機と骨組みを提供します。対面実技検定は学習者が更に自身の楽曲演奏、テクニック、読譜、聴音、音楽的な知覚能力について褒賞され、認められるように設計されています。

受検資格

ジャズパフォーマンスグレード検定は8段階に分かれています。受検における年齢制限はなく、グレード1から5まではどのグレードからでも受検できます。グレード6、7、および8の受検者は検定の申し込み締め切り日までに以下の検定に合格していなければなりません。

- ・ ABRSM 音楽理論 グレード5以上
 - ・ 同プラクティカル・ミュージシャンシップ グレード5以上
 - ・ 同ソロのジャズ楽器対面実技検定 グレード5（訳註：日本では行われておりません）
- 代替条件を含む詳細については www.abrem.org/prerequisite を参照のこと。

資格規定

英国における UCAS ポイントの規定

英文7～8 ページの表は、グレード取得の際の資格規定です。（訳註：合格証に記載され、英国系学校への進学の際、加点される。）詳細は、以下を参照願います。 www.abrsm.org/regulation

英国以外のヨーロッパにおける UCAS ポイントの規定

以下は、英国と英国以外のヨーロッパのポイントの対比表です。

その他の国の UCAS ポイントの規定

各国のポイントについては以下を参照願います。 www.abrsm.org/regulation

2. ジャズパフォーマンスグレード検定

要項(シラバス)

受検の準備において、関連シラバス(セクション 3)及びガイドを必ず事前にお読みください。ジャズパフォーマンスグレード検定に関する更なる詳細は次のサイトをご参照ください。

www.abrsm.org/drumkit

課題曲有効期間

各楽器の課題曲リストは定期的に変更される対象となっています。有効期間は各楽器によって異なり、関連シラバス(セクション3)において確認出来ます。現在の各課題曲リーリストは次のリンクにてご確認ください。www.abrsm.org/performancegrades

シラバスの変更

すべての変更—マイナーな変更点を含む変更告知—は、その都度下記の公式サイトに掲載されます。

www.abrsm.org/syllabuscorrections

次回のシラバス

更新がある場合、事前にウェブサイトにてお知らせします(www.abrsm.org/syllabusupdates)。

検定規定集

検定の準備をする際の、様々な規定をしっかりと理解することは、重要です。この規定集は、英国公式サイトからダウンロードできます。www.abrsm.org/examregulations

不正受検と不正運営

私たちは音楽力の達成を目指しています。そして、この検定は何千人という人々の音楽学習や指導に役立っているのです。特に高等教育への進学の場合はこれが顕著です。したがって、この資格の価値や公正性は、受検者の技術と知識を測る指標として大変重要なものとなっております。不正行為は、決してあってはならないものであり、重大な事柄なのです。

●**不正受検**とは検定評価、結果や、証書発行過程での妥協的行為を伴う場合を指します。資格授与団体としての名誉や評判を傷つけるような行為もこれに含まれます。

●**不正運営**とは運営上の手続きが著しく規定に反するもので、特にこれが検定結果の公正性を損なう場合を指します。

受検者、受検申込み者は当該シラバス及び、検定規定集、をもとに決められた手続きに従って、受検を行うものとします。不正受検が行われた場合は罰則があります。詳細は英国公式ウェブサイトにてご参照ください。www.abrsm.org/policies

受検会場

ジャズパフォーマンスグレード検定は受験者/申込者が選んだ会場で行うことができます。受験者の学校、先生の教室、その他の適切な空間、楽器、装備が整った場所を利用することができます(伴奏に必要なピアノ又はオーディオ装備を含む)。受験者の家で撮影することも可能です。

受検申込

検定日程、会場、受検料、申込方法については下記のサイトをご覧ください。

www.abrsm.org/exambooking

受検へのアクセス（特別な配慮を必要とされる方）

ABRSMは、視覚障がい、学習障がい、その他通常の受検が困難なすべての受験者が、この検定を受検できるように、ガイドラインを設け努めてまいります。詳細は次のページにてご確認ください。

www.abrsm.org/specificneeds

このガイドライン以外の事例については、ケースバイケースで対応いたします。

パフォーマンスグレードには補助的なテスト項目が含まれておらず、受験者は検定員の質問に答えたり、初めて見る楽譜を読んで演奏したりする必要がありません。従って、演奏自体に追加時間を設けることは出来ません。ただし、演奏者の必要状況によっては演奏中に休憩を取るなどのオプションを提供しております。

詳しくは accesscoordinator@abrsm.ac.uk 又は www.abrsm.org/specificneeds にご相談ください。

日本で受検される場合、日本事務局にまずお問い合わせください。 info@kakehashi-foundation.jp

特別な配慮

受験者が突然の病気や事故、悪阻、或いは検定直前の不慮の不都合な状況に陥った場合には、特別な配慮がなされます。これは、検定員による配点や評価が変わるということではありません。詳しくは以下を参照のこと。 www.abrsm.org/policies

多様性

ABRSMは音楽界においてさらに多様性、平等性、そして包容力を推進していくことに全力を尽くす所存であり、私たちの組織内においてもこれを成し遂げるため努めております。私たちの多様性を担当する部署及びその最新情報については英国公式サイトページをご参照ください。

www.abrsm.org/diversity-statement

検定の内容

ジャズパフォーマンスグレード検定は4曲の演奏とパフォーマンス全体の評価の5つの要素で構成されています。各々の配点については英文要項14ページを参照のこと。

検定の実際

ジャズパフォーマンスグレードは、現在オンライン検定として提供されており、受検者の演奏を動画で撮影し、評価のためABRSMに提出する形になっています。受検者/申込者は検定を行うのに適切な会場と装備を探して確保する必要があります。(譜面台、撮影機器等)

演奏曲は全てワンテイクで演奏・撮影される必要があります、その間停止してはなりません。受検者は演奏を始める前に選択した自由曲の楽譜の冒頭を画面に映し、口頭で自己紹介と演奏曲目の紹介を行います。検定員は演奏者が曲を弾き始める時点から評価を始め、演奏が制限時間を超過する場合途中で聞くのを中断する可能性があります。

受検者が18歳未満の場合、撮影課程は18歳以上の成人責任者による監督が必要となります。この場合、成人責任者は申込者、教師、または保護者がその役割を担うことができます。

検定の撮影と提出に関する詳細な案内はウェブサイトにて確認出来ます。www.abrsm.org/performance-grades (和訳案内は日本事務局サイトにてご確認ください。)

3. ジャズピアノパフォーマンスグレード検定シラバス

はじめに

2024年からABRSMに導入されたジャズパフォーマンスグレードグレード1から5は、長年行われてきた対面実技検定に対しもう一つの選択肢を提供するために始まりました。学習者たちが自身の演奏スキルに集中して披露できるように設計されています。この検定は学習者が自身の強みと興味に合わせて演奏し、自身の成果を公式に認められるように設計されました。そして今回、学習者たちが更に自身のスキルを磨くことが出来るように、グレード6から8までを含めて拡張させました。ジャズパフォーマンスグレードは、補助的なテストの評価を取り除き演奏パフォーマンスにのみ集中した、接しやすい検定試験となっています。その代わりに、一番早い段階から選ばれた適切なレパートリーを継続したパフォーマンスの中で表現し伝えて行くように求められます。

音楽家たちは曲を探究し演奏するために楽器の演奏法を学びます。それゆえに、この検定の焦点は曲の演奏とそれらの組み合わせ方によって説得力のある継続的なパフォーマンスを作り上げることにあります。パフォーマンスグレードでは、受検者は各グレードで4曲ずつ演奏することを求められます。

ジャズパフォーマンスグレードの課題曲レパートリーは課題曲リストを用いており、これらはブルースやスタンダードから現代ジャズまで様々な伝統とスタイルを探究できるように構成されています。グレード1から5までのリストは、それぞれブルース、スタンダード、現代ジャズ(対面実技検定と同様の課題曲)に分けられています。グレード6から8では、技術的な鋭敏さ、表現力豊かな演奏、そして多様な特徴や作品によって分けられています。各リストから虚構を選ぶことによって、受検者がバランスの取れた様々なジャンルを演奏できる機会を得ると同時に多様なスキルを披露できるようになっています。

ジャズパフォーマンスグレードは演奏のみに焦点を当てているため、レパートリーの選択は非常に重要であり、曲の対照、演奏順序、それぞれの曲が持つ雰囲気や特徴の違い等を十分に考慮する必要があります。そうすることによって受検者はただ個々の曲を演奏するだけではない、合理的で説得力のある演奏を届ける能力を証明することが出来ます。この部分は、パフォーマンス全体の評価の基準が適用されて評価されます。

ジャズパフォーマンスグレード：課題内容

2026年からの変更点

- ・ グレード6-8の追加
- ・ 評価基準がグレード6-8の実地に合わせて変更

このシラバスは2026年1月1日からシラバス更新の告知があるまで有効です。

ここでは講師指導者と受検者がABRSMジャズピアノパフォーマンスグレード検定を受ける際に考慮すべき重要事項の概要を説明します。検定の事務事項などを含める詳細はABRSM検定の規定概要にて提

示されていますので、申込の前に必ずお読みください (www.abrsm.org/performancegrades)。

楽器

検定では選んだ曲が楽譜通りに演奏できる楽器を使用する必要があります。これにはグランド・ピアノ、又はアップライト・ピアノ、電子ピアノなどが使用可能です。電子ピアノの場合は、それで受検することも出来ます。但し、ピアノ音色であること、88 鍵ありピアノ同様の鍵盤タッチであること、アクション、幅、ダンパー・ペダル等がピアノと同様の機能をもつことを条件とします。楽器の限界(鍵の数が少ないなど)に合わせて楽曲を編曲することは禁じられており、電子ピアノでは特定の音楽的效果を実現できないため、選曲時にそれらのことを考慮しなければなりません。検定員は楽器の特徴に関係なく聞こえた音のみに対し採点基準(音程、音質、音楽的なアウトラインなど)を適用して評価します。

パフォーマンス(演奏)全体の評価

演奏スキルはパフォーマンスグレードの核心となるものであり、個々の曲を準備するだけにとどまりません。学習者の演奏者としての力を発揮できるプログラムを構成し、しっかりとした音楽的な意図とその疎通に重点を置いて伝達することは、音楽的な成長において最も中心的なものです。これによって持久力を育て、曲から曲への転換を含む、一つのプログラムを通して演奏するための技術的なコントロールをしっかり根付かせます。曲の雰囲気や特徴を伝える方法を研究し、様々なタイプのレパートリーにおける各スタイルをしっかり理解し、色んな曲を説得力のある魅力的なひとつのプログラムとして組み立てることは、学習者の音楽に対する知識と理解をさらに広げることになるでしょう。

パフォーマンス(演奏)全体の評価がどのように評価されるのかについての更なる詳細は、ジャズパフォーマンスグレード要項のセクション 4 をご確認ください。

演奏曲の選択

演奏曲数：受検者は四つの演奏曲を途中で途切れることなくひとつの継続的なパフォーマンス(演奏)として披露します。3つの課題曲リスト(ブルース、スタンダード、と現代ジャズ)から、それぞれ最低でも 1 曲ずつを選びます。4 番目の曲は必ず課題曲リストからもう一つ選びます。演奏曲はどのような順序で演奏しても構いません。

プログラム(演奏)時間：曲から曲への転換を含む演奏全体の時間は、以下の表にある各グレードに定められた最大演奏時間を超えてはなりません。プログラムの演奏時間は、最初の音が演奏された瞬間から最後の音までとなります。動画が演奏最大時間を超える場合、その時点で検定員が聞くのを中断する可能性があります。

	グレード							
	1	2	3	4	5	6	7	8
演奏最大時間 (分)	9	10	11	13	15	18	23	28

曲の形式(グレード6から8のみ)

課題曲リストAとBにおいて、受検者は課題曲リストにおける形式の指示を必ず守らなければなりません。

HEAD(ヘッド): 一番単純に書かれている「メロディ」を弾く。

RETURN OF HEAD(ヘッド再び): ソロ演奏後、「ヘッド」の残りの部分を弾く。

リストCでは、各楽譜の指示に従います。

伴奏(グレード6から8のみ)

リストAとBの課題曲は、必ず伴奏が必要です。受検者は必ずABRSMの演奏条件を遵守しなければなりません。受検者は、次のオプションからどれかひとつを選択出来ます。

Minus-One バックトラック

ABRSM から提供されているバックトラック(伴奏のみ)音源をオンラインの大手音楽配信及びダウンロード販売サイトから入手して使用することが出来ます。これらは検定専用の形式と楽器の組み合わせ(ベースとドラムのみ・キーボードはなし)で、ピアノの受検用に作られています。

生演奏での伴奏: 音源の代わりに、生演奏の伴奏で同じような形式の演奏を行うことも出来ます。伴奏はもう一台のピアノで代用は出来ませんが、一般的なリズムセクションの組み合わせ(ギター、ベース、ドラム)なら可能です。ソロを演奏するのは受検者のみです。

課題曲リスト: 課題曲レパートリーは、受検者の年代、背景、興味に合うように、できるだけ広い範囲から選ばれております。曲の選択は、各々の受検者に適切であるものを選ぶべきであり、場合によっては先生や保護者と相談する必要があります。指導者や保護者は曲の選択については、あらかじめ良く相談し、又受検者が曲を検索する場合は注意を払うこと。詳しくは www.nspcc.org.uk/onlinesafety をご参照ください。

グレード1-5の課題曲リストは、ジャズ対面実技検定と共通です。両方の検定を同じグレードで受ける予定の受検者は、それぞれ違う曲を選ぶことで自身の音楽的な成長に良い影響を与えることが出来るでしょう。

楽譜と出版社: グレード1から5までの課題曲は全て ABRSM によって出版されている Jazz Piano

Pieces に収録されています。グレード 6-8 の課題曲は、出版情報及び調性が課題曲リストに指定されています。受検者は他のバージョン及び編曲・変調した楽譜の使用は禁じられています。

ペダルについて：ペダルの使用は自由ですが、グレード 5 までは必須ではありません。

手の大きさについて：受検者はご自身の手の大きさを考慮して曲を選択しましょう。必要に応じて和音を分散して弾いたり、ある音を省略しても音楽的に問題がなければ減点されることはありません。

繰り返し(リピート)：即興/ソロのセクションを含む、全ての繰り返しを行います。グレード 6 - 8 のリスト A と B の曲においては、曲の構造・形式が課題曲リストにて指示されています。リスト C の曲は全ての繰り返しを遵守します。

検定の準備

プログラムフォーム・演奏前の順序：受検者は動画アップロード時にプログラムの情報をオンラインで提供しなければなりません。必要な曲情報は、演奏する順に記入します。

受検者は演奏を始める前に、自由曲の冒頭部分を画面に提示し、自己紹介と演奏曲の紹介を口頭で行う必要があります。また、グレード 6、7、8 の受験生は、これに加えて写真付き身分証明証をカメラに映す必要があります。これらのグレード資格は大学の入試などに利用される可能性があるからです。

受検者が望む場合、楽譜をカメラに提示することや口頭紹介などは評価対象には含まれませんので、成人責任者が代行することも出来ます。演奏の評価は音楽の最初の一音が響いた瞬間から始まります。

以上に関する更なる情報は、音楽パフォーマンスグレードのご案内 www.abrsm.org/performance-gradesにてご確認ください。

楽譜の解釈：グレード 1 から 5 までは、各教材におけるガイドをご参照ください。

グレード 6-8 のリスト A と B の課題曲では、受検者が基本的なリードシートを一般的なジャズ演奏の慣習（リズムセクションとの協奏や生のジャム・セッションで要求されるものと同様）に従って解釈することを求められます。ヘッドは明確なメロディとリードシートに記譜されているコード進行に合わせて適切な伴奏を付けて演奏します。メロディの装飾・アドリブは各曲のスタイルに合わせて入れます。ソロ部分では、コード進行は必ず遵守し、ソロの即興演奏には適切なジャズ的表現とコンピングのボイスングを用いることが求められます。

グレード 6-8 のリスト C では、ヘッドは譜面通りに演奏する必要がありますが、メロディに曲に合った適切な追加装飾を加えることは全てのグレードにおいて推奨されています。ただし、楽譜を

単純化してはいけません。ガイドラインとなる右手の音と左手パートが初めに与えられており、これらは曲のスタイルを提示しています。場合によっては受検者を助けるため、メロディの輪郭が提示されていることもありますが、これらは必ずしも検定において守らなければいけないものではありません。受検者は与えられた音楽的な材料を用いて、自身の経験に基づき、他の音やボーイングなどを加え、音楽を広げて行くことを求められます。

暗譜：暗譜での演奏は任意です。演奏終了時に検定員が楽譜を参照する場合がありますので暗譜にての受検者も必ず楽譜をご用意ください。また、暗譜の有無が評点に影響することはありません。

譜めくり：検定中、譜めくりが困難が生じたとしても、それが採点に響くわけではありません。譜めくりしにくいページはコピーを用意することもあるかもしれません（次の「コピー」の項をお読みください。）譜めくりがどうしても困難な場合は、譜めくり者(指導者など)を同伴することも可能です。

著作権：英国の法律の定めるところにより、いかなる種類のコピーも認められていません。但し、『英国音楽出版協会』規約により、一定の著作権保持者のもので特殊な場合にコピーの使用が認められます。（詳しくは www.mpaonline.org.uk をご覧ください。）その他の場合においてはコピーをとる前に申請をし、検定において許可証の提示が必要です。

すべての受検者と申請者は著作権法の範囲内で行動することを求められます。不適切な行為などが判明した場合、検定結果の発表を保留する場合があります。

楽譜を求めるにあたって：検定用の楽譜は、楽器店やオンラインで購入が可能です。（ABRSM も含む； shop.abrsm.org）

課題曲リスト：英文 15 ページを参照

4. 評価と採点及び違反行為

評価の目的

次の表は実技検定の際、受検者に必要な知識や技術のレベルを表しています。これらは検定員が評価する際の基準と連動しています。詳しい評価基準は英文 25-26 ページをご覧ください。

(訳註：英文 20-22 ページの基準一覧は英国圏でのレベル分けとなっている為、和訳は省略)

評価の配点

弦楽器対面実技検定評価の点数は、下記の様に、要素毎に振り分けられています。

検定の区分	各セクションの満点	合計点に対する配分
課題曲 1	30	20%
課題曲 2	30	20%
課題曲 3	30	20%
課題曲 4	30	20%
パフォーマンス全体	30	20%
合計	150	100%

評点の区分

以下は検定結果の区分け一覧です。各項目において、必ずしも 100 点 (66%) を獲得しなければならないということではありません。

評点の区分	評点の範囲
Distinction (秀)	130-150
Merit (優)	120-129
Pass (合格)	100-119
Below Pass (不合格)	50-99

包括的評価について

包括的評価とは、受検者が主要な課題において必要な技術、知識など効果的に使い、示しているかを判断する評価の形式のひとつです。実技検定では異なるスキル、知識、理解力-理論、表記、楽器のコントロール、聴く力、創造的な解釈力等をまとめて、検定の個々の科目に応用することが出来るのです。

評価

検定員の評価は、当日の検定内容のみに基づいて行われます。以前のパフォーマンスは評価の対象とはなりません。

ひとつの動画はどんな資格に対しても一度のみ提出が許可されており、同じ、又は違う資格検定に対して再利用することは出来ません。一度提出された動画が再度評価のためにアップロードされた場合、これは認められず、二度目の検定は失格となります。

違反行為

受検者/受検予定者は、ジャズピアノパフォーマンスグレード検定要項に掲載された検定内容を読み、遵守することが重要です。これらに違反した場合は、ABRSMの裁量にて警告、減点或いは失格となる場合があります。以下は違反行為の例です：

- プログラム構成において曲数が4曲を下回る場合、または当該グレードのABRSM課題曲リストから選んだ曲が3曲未満である場合
- 課題曲リストから選んだものの、シラバスの指示に従わなかった場合
- 許容されていない休憩を取った場合
- ワンテイクで撮影されていない、または何らかの編集が施された動画を提出した場合

以上の行為のみとは限りません。

これらに対する対応としては、

- 書面での警告：主に細かい違反（例：同じリストから2曲選択）に対して行われます。それ以降の検定において違反行為が続く場合には、より重い罰則が科せられます。
- 各要素（訳注：課題曲1など）の減点：要項に掲載されていない曲の演奏のようなより重要な違反に対しては、各項目つき3点からその項目の満点までの範囲において減点が行われることがあります。
- 基本的に検定内容が遵守されていない場合（例：当該グレードからの選曲が皆無である等）には失格もあり得ます。

検定員は違反行為を ABRSM に報告し、その裁量と対応がなされます。その為、結果通知が遅れる場合があります。以前同じ違反行為が罰則なしで受け入れられたとしてもそれは先例にはならず、これによるアペールは受け付けません。

採点基準 (Marking Criteria)

英文 25-26 ページの評価リストは検定員が実際使用するもので、各曲がそれぞれ 30 点満点として最初の評価基準に基づいて採点されます。全体の演奏が終わった後、パフォーマンス全体の評価が 30 点満点として二つ目の評価基準に基づいて採点されます。パフォーマンス全体の評価の基準に対する解釈については 27-28 ページでご確認ください。

検定員は評価基準に示されている全体的な音楽的資質や能力を考慮して、各要素の合格点から加点、又は減点する形で結果を出します。

グレード	各演奏曲に対する評価基準				
	1-8	ピッチ(音高・音程)	タイム	音色	音楽的な形付け
優 (Distinction) 27-30	<ul style="list-style-type: none"> ● 非常に正確な音 ● ソロのスタイリッシュで独創的な音の選択 ● 即興における和声の認識 	<ul style="list-style-type: none"> ● 流暢で、適切な部分で柔軟に対応 ● リズムの特徴と拍の感覚が良く表せている ● 説得力のあるグルーヴ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 良く響く ● 自信のあるジャズ調性の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ● テーマの音楽的な形付けの豊かで自然な表現 ● ソロは細部まで独創的である 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自信のある演奏 ● 音楽に没頭している ● 生き生きとした特徴とスタイルの伝達 ● 自然で適切な装飾
良(Merit) 24-26	<ul style="list-style-type: none"> ● ほぼ正確な音 ● ソロの統制された音の選択 ● 理に適った即興 	<ul style="list-style-type: none"> ● 持続的で効果的なテンポとグルーヴ ● 全体的に良いリズム感と拍の感覚 ● 即興の統制されたリズム配置 	<ul style="list-style-type: none"> ● コントロールされ、一貫している ● 良いジャズ調性の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ● テーマの音楽的な形付けの明快な表現 ● ソロにはいくらかの豊かな表現がある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 肯定的 ● 音楽的な確信を持つ ● 音楽的特徴とスタイルの伝達 ● 効果的な装飾
合格(Pass) 20-23	<ul style="list-style-type: none"> ● 概ね正しい音と音程 ● ソロに輪郭がある* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切なテンポ ● 概ね正しいリズムと拍の感覚 ● ソロのリズム配置が概ね安定している 	<ul style="list-style-type: none"> ● 概ね安定している ● 十分なジャズ調性の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ● テーマのある程度の音楽的な形付けの表現と細部への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ● 概ね安定的、ミスからの速い立ち直り ● ある程度の音楽的表現 ● 装飾の試み
不合格 (Below Pass) 17-19	<ul style="list-style-type: none"> ● 頻繁な音のミスがある/音程が不安定 ● ソロに輪郭がない* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 不適切/コントロールされていないテンポ ● 不均一な拍とグルーヴ ● 不正確なリズムと拍 	<ul style="list-style-type: none"> ● 不均等で不安定 ● 不十分なジャズ調性の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽的な形付けの十分な表現 	<ul style="list-style-type: none"> ● ミスからの不安定、不十分な立ち直り ● 不十分な音楽的表現 ● 非効果的な装飾または装飾なし
13-16	<ul style="list-style-type: none"> ● 音/音程が大幅に不正確 ● ソロに一貫性がない* 	<ul style="list-style-type: none"> ● 不安定なテンポとリズム ● グルーヴや拍の感覚が成立されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● コントロールが殆ど出来ていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽的な形付けが殆ど表現されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 流れが途切れる ● 音楽的な表現がまったくない
10-12	<ul style="list-style-type: none"> ● 音/音程が非常に不正確 ● ソロが認識できない/なし 	<ul style="list-style-type: none"> ● 認識できないテンポと拍 ● グルーヴや拍の感覚なし 	<ul style="list-style-type: none"> ● コントロールが出来ない 	<ul style="list-style-type: none"> ● 音楽的な形付けなし 	<ul style="list-style-type: none"> ● 短いセクション以上続けて演奏が出来ない
0	演奏なし	演奏なし	演奏なし	演奏なし	演奏なし

グレード	パフォーマンス全体の評価		
1-5	コミュニケーション	解釈	伝達
優 (Distinction) 27-30	<ul style="list-style-type: none"> 一貫して良く響き、音楽に没頭し、演奏に確信を持って専念している 効果的な曲の組み合わせと演奏ペースの維持、一貫して秀でた演奏状況への認識とコントロール能力 	<ul style="list-style-type: none"> 一貫して効果的なスタイルの特徴付け; プログラムの要求する解釈水準を見事に満たしている 効果的な組み合わせ方やバランスのとり方を伴う、一貫して秀でたテクスチャとアンサンブルに対する認識とコントロール能力 	<ul style="list-style-type: none"> 一貫して自信を持ってコントロールが出来ていて、プログラムの要求する技術的な水準を見事に満たしている 一貫して効果的な楽器の扱い方が出来て、演奏状況に完全に対応している
良(Merit) 24-26	<ul style="list-style-type: none"> 大体において良く響き、音楽に集中し、演奏に対し肯定的に取り組んでいる 殆どにおいて効果的な曲の組み合わせと演奏ペースの維持、全般的に良い演奏状況への認識とコントロール能力 	<ul style="list-style-type: none"> 大体において効果的なスタイルの表現; 概ねプログラムの要求する解釈水準をしっかりと満たしている 概ね良い組み合わせ方やバランスのとり方を伴う、大体において優れたテクスチャとアンサンブルに対する認識とコントロール能力 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なコントロールが出来ていて、大部分でプログラムの要求する技術的な水準をしっかりと満たしている 大部分で効果的な楽器の扱い方が出来て、殆どの演奏状況にしっかりと対応している
合格(Pass) 20-23	<ul style="list-style-type: none"> 演奏の全体的な感覚を維持するのに十分な響きと音楽的な表現 曲の組み合わせと演奏ペースの維持において十分な演奏状況への認識とコントロール能力 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの要求する解釈水準を満たせるスタイルの表現 適切な組み合わせ方やバランスのとり方を伴う、十分なテクスチャとアンサンブルに対する認識とコントロール能力 	<ul style="list-style-type: none"> 全般的にコントロールが出来ていて、全体を通してプログラムの要求する技術的な水準を満たしている 演奏状況に十分対応できる楽器の扱い方が出来ている
不合格 (Below Pass) 15-19	<ul style="list-style-type: none"> 演奏を維持するのに不十分な響きと音楽的な表現 曲の組み合わせと演奏ペースの維持において不十分な演奏状況への認識とコントロール能力 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの要求する解釈水準を満たさないスタイルの表現 不適切な組み合わせ方やバランスのとり方、不十分なテクスチャとアンサンブルに対する認識、又はコントロール能力 	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの要求する技術的な水準を満たすコントロールを維持できない 演奏状況に対応できる楽器の扱い方が出来ていない
10-14	<ul style="list-style-type: none"> 演奏感覚が概ね欠如している 	<ul style="list-style-type: none"> スタイルの表現、テクスチャとアンサンブルのコントロール能力が欠如している 	<ul style="list-style-type: none"> 技術的なコントロール及び楽器の扱い方が不安定

グレード	パフォーマンス全体の評価		
6-8	コミュニケーション	解釈	伝達
優 (Distinction) 27-30	<ul style="list-style-type: none"> ● 一貫して良く響き、音楽に没頭し、演奏に確信を持って専念している ● 効果的な曲の組み合わせと演奏ペースの維持、一貫して秀でた演奏状況への認識とコントロール能力 ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：常に明確なグルーブとフィールを表現 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一貫して効果的なスタイルの特徴付け; プログラムの要求する解釈水準を見事に満たしている ● 効果的な組み合わせ方やバランスのとり方を伴う、一貫して秀でたテクスチャとアンサンブルに対する認識とコントロール能力 ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：常にスタイルが適切で、和声と効果的な関係を保っている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一貫して自信を持ってコントロールが出来ていて、プログラムの要求する技術的な水準を見事に満たしている ● 一貫して効果的な楽器の扱い方が出来て、演奏状況に完全に対応している ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：常に確信を持ってリズムの配置、メロディーライン、フレーズの構造などを作りこめている
良(Merit) 24-26	<ul style="list-style-type: none"> ● 大体において良く響き、音楽に集中し、演奏に対し肯定的に取り組んでいる ● 殆どにおいて効果的な曲の組み合わせと演奏ペースの維持、一般的に良い演奏状況への認識とコントロール能力 ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：大体においてグルーブとフィールがよく表現されている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大体において効果的なスタイルの表現; 概ねプログラムの要求する解釈水準をしっかりと満たしている ● 概ね良い組み合わせ方やバランスのとり方を伴う、大体において優れたテクスチャとアンサンブルに対する認識とコントロール能力 ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：概ね適切なスタイルで、大体において和声に適切な関係性を保っている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 効果的なコントロールが出来ていて、大部分でプログラムの要求する技術的な水準をしっかりと満たしている ● 大部分で効果的な楽器の扱い方が出来て、殆どの演奏状況にしっかりと対応している ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：リズム配置、メロディーライン、フレーズ構造がコントロール出来ている
合格(Pass) 20-23	<ul style="list-style-type: none"> ● 演奏の全体的な感覚を維持するのに十分な響きと音楽的な表現 ● 曲の組み合わせと演奏ペースの維持において十分な演奏状況への認識とコントロール能力 ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：十分なグルーブとフィールの表現 	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムの要求する解釈水準を満たせるスタイルの表現 ● 適切な組み合わせ方やバランスのとり方を伴う、十分なテクスチャとアンサンブルに対する認識とコントロール能力 ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：スタイル、和声との関係性において、一定水準は満たしている 	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般的にコントロールが出来ていて、全体を通してプログラムの要求する技術的な水準を満たしている ● 演奏状況に十分対応できる楽器の扱い方が出来ている ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：リズム配置、メロディーライン、フレーズ構造が一定水準は満たしている
不合格 (Below Pass) 15-19	<ul style="list-style-type: none"> ● 演奏を維持するのに不十分な響きと音楽的な表現 ● 曲の組み合わせと演奏ペースの維持において不十分な演奏状況への認識とコントロール能力 	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムの要求する解釈水準を満たさないスタイルの表現 ● 不適切な組み合わせ方やバランスのとり方、不十分なテクスチャとアンサンブルに対する認 	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムの要求する技術的な水準を満たすコントロールを維持できない ● 演奏状況に対応できる楽器の扱い方が出来ていない ● 即興演奏（アドリブ）/装飾：リズム配置、メロディーラ

-
- 即興演奏（アドリブ）/装飾：不十分なグルーヴとフィールの表現
 - 即興演奏（アドリブ）/装飾：不十分なスタイルの表現と和声との限定的な関係性
 - 即興演奏（アドリブ）/装飾：不十分なグルーヴ 識、又はコントロール能力 イン、フレーズ構造が不安定
 - 即興演奏（アドリブ）/装飾：不十分なスタイルの表現と和声との限定的な関係性
-
- 10-14**
- 演奏感覚が概ね欠如している
 - スタイルの表現、テクスチャとアンサンブルのコントロール能力が欠如している
 - 技術的なコントロール及び楽器の扱い方が不安定
-

パフォーマンス全体の評価 (Marking Criteria)

合格基準として、受検者は選択した曲のプログラム全体を通して一貫した演奏をこなすことを求められます。演奏者の曲への気持ち、音楽的な描写、音楽的要素の解釈、楽器の演奏に必要なテクニックなどが十分に伝わりやすいレパートリーを選ぶ必要があります。また、バックトラックと演奏する際に必要なアンサンブル能力、安心できる演奏を聴衆に届けるために必要なスタミナなどにも注意しなければなりません。

コミュニケーション(C)、解釈(I)、そして伝達(D)の部分において、受検者は音楽的、技術的な能力を幅広く披露する必要があります。そうすることによって、自身の継続的なプログラムの演奏における全般的なセンスを証明することになるのです。

グレード1から3

- C 受検者は音楽的なコミュニケーション、目的、個人的な関心を初級レパートリーによるプログラム全体を通して感じ取れるように披露します。初級レベルの演奏状況に対する認識を4曲の演奏中、そして演奏と演奏の間に表します。短いプログラムを通して、受検者は演奏に対する関心と音楽的な環境を作れることを証明します。
- I 受検者は各演奏曲に合った特徴と雰囲気音楽的な詳細とスタイルの初歩的な理解を持って披露します。簡単なテクスチャにおける音楽的な役割に対する理解を示し、類似点と相違点を指摘することが出来ます。分かりやすい音楽的な要素を調和しバランスを取ることが出来、適切な場所でアンサンブルに対する認識も表します。
- D 受検者は自身の楽器に対する十分なコントロールが出来、初歩的なレパートリーの技術的な課題を自信を持ってクリアできなければなりません。短いプログラムの最初の音から最後の音まで、一貫して技術的な安定を維持するための集中力とスタミナを有しています。

グレード4、5

- C 受検者は音楽的なコミュニケーション、目的、個人的な関心を中級レパートリーによるプログラム全体を通して感じ取れるように披露します。演奏状況に対し発展している認識を4曲の演奏中、そして演奏と演奏の間に表します。適切な長さのプログラムを通して、受検者は演奏に対する関心と音楽的な環境を作れることを証明します。
- I 受検者は各演奏曲に合った特徴と雰囲気を音楽的な詳細とスタイルの発展している理解を持って披露します。テクスチャ、音色、アーティキュレーション、雰囲気の違いを指摘することが出来、様々な音楽的な要素を適切に調和しバランスを取り、適切な場所でアンサンブルに対する認識も示すことが出来ます。
- D 受検者は自身の楽器に対する十分なコントロールが出来、中級レパートリーの技術的な課題を自信を持ってクリアできなければなりません。適切な長さのプログラムの最初の音から最後の音まで、一貫して技術的な安定を維持するための集中力とスタミナを有しています。

グレード 6, 7, 8

- C 受検者は音楽的なコミュニケーション、目的、個人的な関心を中級レパートリーによるプログラム全体を通して感じ取れるように披露します。演奏状況に対し発展している認識を 4 曲の演奏中、そして演奏と演奏の間に表します。適切な長さのプログラムを通して、受検者は演奏に対する関心と音楽的な環境を作れることを証明します。
-
- I 受検者は各演奏曲に合った特徴と雰囲気音楽的な詳細とスタイルの発展している理解を持って披露します。テクスチャ、音色、アーティキュレーション、雰囲気の違いを指摘することが出来、様々な音楽的な要素を適切に調和しバランスを取り、適切な場所でアンサンブルに対する認識も示すことが出来ます。
-
- D 受検者は自身の楽器に対する十分なコントロールが出来、中級レパートリーの技術的な課題を自信を持ってクリアできなければなりません。適切な長さのプログラムの最初の音から最後の音まで、一貫して技術的な安定を維持するための集中力とスタミナを有しています。
-

5. 検定の後に

結果

全ての受検者は検定の結果を受け取ります、又合格者へは、合格証が送付されます。ABRSMはできるだけ所定のスケジュールに沿って、結果を送付するようにしておりますが、遅れる場合もあります。検定員は結果報告に関してのいかなる行為も行いません、即ち評点用紙（合格者には合格証）は、検定後本部より発行されます。又、結果はエントリーフォームに記載されている受検申込み者に送付され、受検者に責任を持って伝えられます。

アピールとフィードバック

アピール

受検者が予期せぬ結果を受け取った場合は、Result Reviewを要求することが出来ます。これにより検定員からの評価が再検討され、場合によっては、評点の変更もあり得ます。

フィードバック

結果再検討に加えて、結果以外のフィードバック、例えば検定全般や、マークフォームなどについてのフィードバックも歓迎いたします。これにより継続的な検定の改善を目指しております。

フィードバックの期限など詳細は www.abrsm.org/send-exam-feedback をご覧ください。